

友をつくる

2026年3月21日

学長 田林 暁一

友は心の隙間に入り込む清らかな水であり、安らぎである。

私は3人会を2020年から毎月1回やっている。メンバーは大学の同級生で学生の頃からの友人である。会の内容としては、3人それぞれが好みの店を選び、飲んで食べるという約2時間の集まりである。毎月やっていて、何を話しているかと言われるが、内容的にはたわいのないことである。大学時代の思い出、失敗談、卒後の経過、現在の経済・健康状態、同級生の状況、また店の料理と酒の味である。ただ、話をしていて楽しいし、笑いがあり、次回が待ち遠しく感じて別れる。最近、私のスキー部の一年後輩が加わり、4人会の形態となり、話題が増え、更に楽しさが増した感じがする。

高校、また大学時代は良い友人ができ、その人が一生の友達になる可能性が高いように思う。大学以後の友達というのは同職関係、職業が同じになることが多く、助けて助けられるというのも同職者としての助けられ方だし、そこに嫉妬心や競争心が働くというのも同職の間のもとなるような気がする。その点、高校、また大学での友達はそれらが少なく、また自分が未熟でこれからどんな人生に向かうのかなと考えていたところに気のあった友達ということで、年を取るとありがたみがわかるような友達ができるように思う。私の真の友達も高校、また大学時代の友人で、会うと本当に気が安らぐ感じがする。

友人を選ぶ基準として、沈黙が気まずくない、うまくいってないときも連絡をくれる、会った後に疲れきっていない、陰で悪口を言わない、失敗したときに愚痴を言える等がある。また、気の合う友達、意気投合できる友達というのを友人選択の基準とせず、自分にはないものを持っている、また自分に教えてくれるものを持っている人を意識して選ぶという考えもある。

いろんな意見はあるが、私は真の友達に対してはその人の長所を認めるという心構えと、その人に不利になるようなことを断じて言わないということが最も大事の様に思う。

現在、非常に普及しているSNSは人々に事実よりも心地よい言葉を与え、出会いと対話を妨げる大きな要因になっているのではないだろうか。つまり、友をつくる妨げになっているように思われるので注意が肝要であろう。